

作文の部

〔最優秀賞〕

◇ 「男らしさ、女らしさとは」 ◇

出流原小学校 6年 小倉 秀斗

ぼくの弟は、かみをのばしている。最近では、かなりのびてきたのでヘアゴムでしばっている。そんな弟を見た人は、

「なぜ、男なのにかみをしばっているの。」
と言う。また、弟はピンク色の物やかわいい物がすきだ。だから同じように
「なぜ、男なのにピンク色やかわいいものが
すきなの。」

と言われる。ぼくは、それを見聞きして、「周りの人たちは、なぜそんなことを言うのだろう。」と少し不思議に思った。

ぼくは前に、父と母が家でどんなことをしているか、そしてそれはなぜなのか、を考えてみたことがある。数十年前の昭和の時代やそれより以前の時代は、男性は外で働き、女性は家事をすることが当たり前だった。それでも、昭和の後半になると、女性が外に出て働くことが増えたらしい。ただし、そのような変化の中でも、女性だからという理由で就けなかつた職業もあったという。たとえば、法医学者だ。当時は男性の職業とされていたため、女性はなれなかった。「男は男らしく、女は女らしく」ということが言われていた時代だった。でも、今はあまり聞かなくなった。

そもそも、「男らしさ」「女らしさ」とはどういうことだろう。多少のことでめそめそないこと、黒や青などの色をこのむこと、外に出て働くこと、大工やパイロット、消防士になること、これが「男らしさ」なのか。常に優しくおだやかでいること、かみをしばり化しようをすること、赤やピンクの色をこの

むこと、家にいてそじや洗たく、料理をすること、これが「女らしさ」なのか。今この時代、保育園や幼稚園の先生として働く男性がいる。看護師としてがんばっている男性もいる。家で家事や育児をする男性もいる。そして、女性のパイロットや大きくて重たいダンプカーを運転する女性がいる。女医さんは今では、めずらしくない。男性は外で働き女性は家で家事をするというのは、今の話ではない。細かい作業が得意な男性、美容の知識が豊富な男性、力仕事が得意な女性、機械や機器のことなら何でも分かる女性。今、この時代は「男らしさ」「女らしさ」ではなく「自分らしさ」が増えている。「男だから」「女だから」というより、「ぼくだから」「あなただから」という考えがもっともっと広がるといいな、と思う。

ぼくの弟は、長いかみをしばり、ピンク色をこのむ。ぼくは、「弟らしいな。」と思う。